花のまちコンクールにみるフランスの都市と自然の関係性

人間・環境学研究科　修士課程　2 年
山口　玲菜
フランス
2019 年 7 月 28 日～2019 年 9 月 25 日

計画の概要

Concours des Villes et Villages Fleuris（以下　花のまちコンクール）は、1959 年にフランス観光庁のキャンペーンとして始まった国家コンクールである。本研究では、花のまちコンクールの掲げるまちの理念や自治体間の競争を促す運営の仕組みが、強固な独立意識を持つフランスの各自治体の自発的なまちづくりを後押ししているとの仮説に基づき、1）花のまちコンクールの歴史的変遷の整理と２）事例調査によって、以下の 2 点を明らかにすることを目的としている。

目的１都市と緑との調和の背景：フランスにおける花や緑のまちの理念とまちづくりを推進する仕組み

目的２ 調和の実態：花や緑のまちの理念を都市がどう解釈し、実空間に反映させているか

渡航計画は以下の４つからなる。なお、調査に先立ち 2019 年 2 月にシャティヨン市役所を訪問し、担当者の方々と面談させていただき、研究へのご協力を承認して頂いている。

１）国立公文書館、国立図書館における花のまちコンクール関連資料の収集
２）県立公文書館、市立図書館、市役所でのシャティヨン関連資料の収集
３）シャティヨン市職員の方々へのヒアリング調査
４）シャティヨン中心市街地と分譲住宅地（Lotissement le Vieux Château 等）を対象に区画ごとの詳細な目視調査と各種イベントへの参加

成果

１．花のまちコンクール関連資料の収集

花のまちコンクールの歴史的変遷を整理するべく、Archives Nationales de France（国立公文書館）、Bibliothèque Nationale de France（国立図書館）François-Mitterrand 館の Rez-de-jardin（調査研究者用閲覧室）にて文献収集を行った。調査期間は 7/30～8/3 である。

国立公文書館では花のまちコンクール運営委員会作成の文書を閲覧した。次に国立図書館では、花のまちコンクール運営委員会発行の雑誌（『France fleurie magazine（1970-1971）』『Balades（2001-2009）』等）や会報誌（『fleurir la France（1997-2004）』）等を収集した。その結果、①花のまちコンクールはこれまでの公共・民間団体主催の各コンクールを受け、

これらを全国的に展開することを目的として企画されたものだったこと、②1988 年のコンクール運営・規則の大改革の背景に、社会の発展や地方分権化の動きがあったこと等が明らかとなった。

写真 1-1 Archives Nationales de France（国立公文書館）

写真 1-2 Bibliothèque Nationale de France（国立図書館）François-Mitterrand 館

２．県立公文書館、市立図書館、市役所でのシャティヨン関連資料の収集

シャティヨンにおける植栽と都市再整備の歴史を整理するべく、これらが展開される 1959 年以降の関連資料を、１）Archives départementales de l’Ain（県立公文書館）、２）Médiathèque François Édouard（シャティヨン市立図書館）、３）同市役所にて収集した。以下、各場所で収集した資料の一部を紹介する。

<u>１）県立公文書館</u>

シャティヨンには市立の公文書館がないため、市発行の各種書類は県立の公文書館に所蔵されている。ここでは、1959～2013 年（欠年号有り）における市の広報紙計 53 部を収集した。

<u>２）シャティヨン市立図書館</u>

市立図書館では、シャティヨンの歴史に関する文献（『Histoire de Châtillon sur Chalaronne（1972）』等）を中心に収集した。この他、国立図書館では未配架であった『60 ans Villes et Villages Fleuris 1959-2019（花のまちコンクール 60 周年記念誌）』、2010 年以降の市広報誌（県立公文書館及び市役所で所蔵がなかった号）12 部、市の年間植栽計画『Fleurissement 2019』を収集することができた。

３）市役所

市役所では、都市計画関連資料と植栽管理に関する資料を収集した。前者については『Règlement de voirie（道路利用・占有に関する規則）（2004）』、『Règlementation Terrasses（路上のテラス設置に関する規則）（2009）』、市の広報誌（1983-1995 年、2006 年以降発行分）38 部等、後者は『Gestion différenciée（植栽の分節的管理）（2006）』、『Tournée d' arrosage（植栽水遣り表）（2016）』等を収集した。

写真 2-1 Archives départementales de l' Ain（県立公文書館）

写真 2-2 Châtillon-sur-Chalaronne 市役所

３．シャティヨン市職員の方々へのヒアリング調査

ヒアリング調査は以下のように実施した。担当者の方々に複数回にわたり面談する機会をいただけたので、目的２の「都市と緑との調和の実態」を分析するに足るデータを得ることができたと思う。

１）緑化部門へのヒアリング　　実施日：08/26，09/05，09/20

市が掲げる花や緑のまちの理念、実現・維持のための手法や課題、住民との関係性を明らかにすることを目的に、植栽管理、花のまちコンクールとの関係、市主催のコンクールやイベント、住民の植栽への参加、植栽への考え方等について伺った。

２）都市計画部門へのヒアリング　　実施日：09/03，09/17

建築・都市計画の視点から、まちの理念や実現・維持のための手法や課題等について明らかにすることを目的に、シャティヨン中心市街地や分譲住宅地の建築規制やその目的、運営実態について伺った。

４．シャティヨン中心市街地と分譲住宅地を対象とした目視調査とイベントへの参加

シャティヨン市周縁部に分譲住宅地が開発され、市街化区域の拡張が進んだのは 1970 年代以降のことである。区画や開発時期による植栽の特徴について明らかにするべく、フィールドワークの対象地区は歴史的なまちなみの残る中心市街地と、初期に開発された分譲住宅地 Lotissement le Vieux Château に設定した。調査項目は、①植栽（形態、管理主体、所有者）、②建物と植栽との関係、③道路と植栽との関係とした。

中心市街地では全道路にて住民による植栽を確認できたものの、道路によって参加度に差異が見られた。最も住民による植栽のみられた Rue de Victor HUGO にはシャティヨンに唯一残存する城門（La Porte de Villars）があり、観光スポットの一つとなっている。この城門は戦前のポストカードでも取り上げられていることから当時から観光スポットであったと考えられ、長い間「見られる対象」であったことが、住民の植栽意識の高さにも繋がっているのではないかと推測できる。

続いて Lotissement le Vieux Château は、中心市街地より川を挟んだ南側に位置する分譲住宅地で、中心市街地を一望できる高台にある。住宅地内にある約 20 戸の住宅全ての門前に備え付けのレンガ造りの花壇があることが特徴的で、そのほとんどに植栽が見られた。住民の植栽への意識の高さが伺え、大変興味深い区画であった。

最後に、植栽関連のイベントとして 9/14、15 に市内の Clos Janin 公園で実施された Marché aux plantes rares（珍しい植物市）について述べる。毎年９月に実施される同イベントには県内外から多くの園芸関連業者や団体が集まり、国内外の珍しい植物や園芸用品が展示販売される。会場の Clos Janin 公園は中心市街地に直結する位置にあり、普段は住民らの憩いの場となっている。また、同公園は市が環境保護活動の一環として「除草剤を使用しない」植栽管理を行っている場でもある。このことから、同場所での植栽関連のイベント実施は、シャティヨンが花と緑のまちであることを市内外の人々にアピールできる機会にもなっていると考えられる。

写真 4-1　Châtillon-sur-Chalaronne 市街地入り口
７つのラベルと Fleur d’Or が掲げられている

写真 4-2　La porte de Villars と植栽
左側は住民による植栽、右側は市が管理する植栽

写真 4-3　Rue de PASTEUR 上の『花の橋』
市が管理する植木鉢が並ぶ

写真 4-4　Marché aux plantes rares
Clos Janin 公園に珍しい植物が並ぶ

５．総括

今回の現地調査により、本研究の目的であるフランスの都市と緑との調和とその背景を分析するに十分な資料やデータはおおむね得られたと思う。特に、シャティヨン関連の資料は 1959 年のものから収集することができた。ただ、国立公文書館・図書館における花のまちコンクール全般資料の収集に関しては、①１週間という時間の制約の下で実施したこと、②公文書館の資料は私的文書であったために全てその場で書き写さなければならなかったこと、③集められた資料の発行年代に偏りがあることから、今後の資料分析の際に研究の方向性を修正する必要がある。

続いてシャティヨンにおけるフィールド調査は、市職員の方々のご協力のもと実現することができた部分が大きい。特に緑化部門の責任者である David ROMANS 氏には、２月の訪問以来メールでも度々連絡をとらせていただき、都市計画部門、広報部門等への面談の実現に繋がった。

今後の作業は、現地調査にて収集した多くの資料やデータの分析が中心になる。一面的な見方にならないよう、論文全体のストラクチャーを意識しつつ作業に取り組んでいきたい。